

秋保氏歴代当主と主なできごと

(中世から藩政時代初頭頃まで)

秋保氏の発祥・伊達氏への従属

●秋保氏は、鎌倉時代の後期から幕末まで、秋保郷（現在の仙台市太白区秋保地区及び青葉区新川地区）をほぼ一貫して治めてきた一族で、出自は平家の落人だったとの伝承がある。

秋保郷は、仙台平野と山形盆地を結ぶ交通の要路で、奥羽における北朝方の中心人物である初代奥州管領吉良家から、秋保五ヶ村の所領を認められた。

秋保と改め、戦乱の世を生き抜き、秋保郷の支配を確立していた。

戦国時代には、西の最上氏・北部の国分氏といつた周辺の有力武将と巧みに関係を構築しつつ、馬場秋保氏や境野氏などを分家し、二口街道沿いの守りを固めた。

そのような中、伊達氏と最上氏の関係が悪化すると、力が得せず、領土侵犯を企て、國境を越えてくる最上勢との小競り合いが度々起り、撃退したことなどが知られる。この頃、伊達氏は大崎とも激しく争っており、最上氏が二口街道を越えてしまふと、挟み撃ちとなる。秋保氏の重要性が増していくといったところだ。これに従属する伊達臣下へと取り込まれていき、18代直盛は伊達政宗の下、奥羽の各地に出陣している。

5代基盛（1295年）：鎌倉將軍（「北条氏」より名取郡を賜り、現在の長袋町から見えて名取川対岸樋山に居を構える）

7代盛定（1342年）：奥州探題吉良貞家より秋保5ヶ村の領有を認められる。姓を「秋保」に改める。

15代盛房（1360年）：明応9年（1500年）、名取大曲の長井晴信の奇襲を受け、楯山城を奪われ、最上氏（天童）を頼つて逃亡する。

12年後、秋保村民の支援を得て、楯山城奪回に成功する。弟盛義に馬場を分地し、馬場上館を築館させ、馬場秋保氏の居館とする。

16代則盛（1371年）：天文11年（1542年）、伊達氏の天文の乱に加勢、事実上伊達氏に従属し、伊達氏との主従関係がはじまる。

18代直盛（1426年）：寛永3年（1626年）正月、政宗に脇指「宝刀瀬登丸」を献上するとともに、秋保系図を上覧し、御一家の家格だったことを言上、右上席を賜る。併せて秋保への復帰を請願する。

承応元年（1652年）伊達忠宗から9軒の家中を率いて、ふるさと秋保へ帰郷する。

山原の御屋敷場を賜り、刈田郡小村崎村から9軒の家中を率いて、ふるさと秋保へ

帰郷する。

馬場の居館は廃館となる。

19代定盛（1626年）：天正19年（1591年）、秋保氏は正式に伊達家臣団「御家」に格付けされる。

天正18年（1590年）秀吉による仙台開府に伴

仕置が行われ、東北地方の戦国時代が終焉する。

天正19年（1591年）、秋保氏は正式に伊達家臣団「御家」に格付けされる。

天正18年（1590年）秀吉による仙台開府に伴

仕置が行われ、東北地方の戦国時代が終焉する。